

DBJレポート

Development Bank of Japan Inc. ●株式会社日本政策投資銀行

中国内陸部の経済成長と日系企業の展開

株式会社日本政策投資銀行 産業調査部 加賀林陽介

【要旨】

中国の沿海部先進地域とその他地域には厳然とした経済格差が存在するが、内陸部にも所得水準の高い都市はいくつも存在する。また、金融危機後は沿海部に比べむしろ内陸部の経済成長率の方が高く、存在感を増している。フロンティアとしての中国内陸部に注目し、日系企業の展開を概観する。

1. 中国国内の所得格差

中国の内陸部を語る際には、沿海部との経済格差の問題を避けて通ることは出来ない。

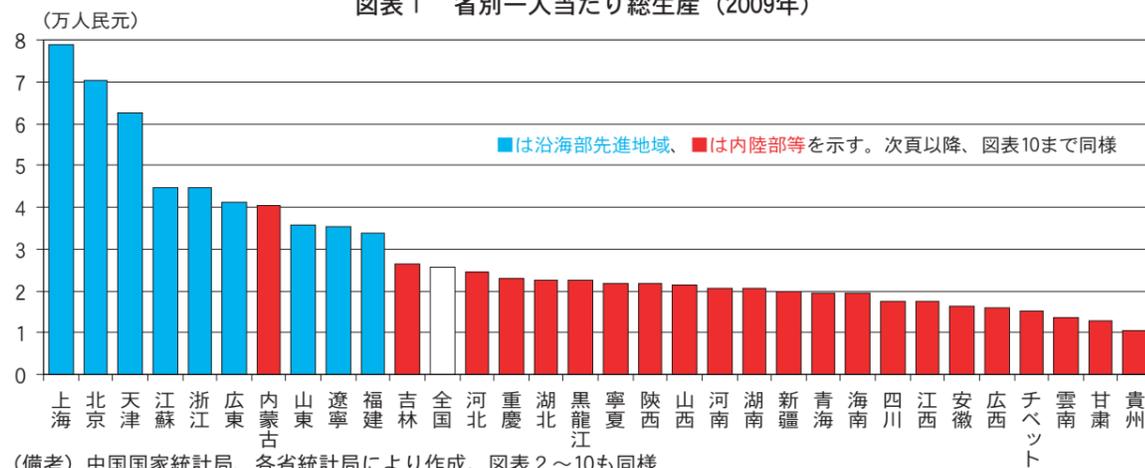
中国の省別一人当たり総生産をみていくと（図表1）、省と同格の4つの直轄市及び5つの民族自治区を含む、省別一人当たり総生産が最大の上海と最小の貴州省では8倍近くの格差があり、中国における地域間格差が一目瞭然となる。1位の上海をはじめとして沿海部を中心とした各省が上位を占め、内陸部の省が下位となっている。本レポートでは以下、上海市・北京

市・天津市・江蘇省・浙江省・広東省・山東省・遼寧省・福建省の9省市を「沿海部先進地域」と称する。

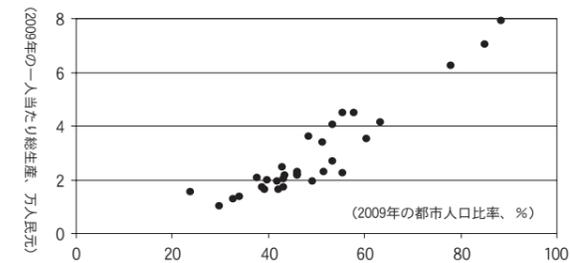
ただし、省別一人当たり総生産格差は、各省の都市人口比率の違いという要因があり（図表2）、都市化の進展度合いが大きく影響しているため内陸部の省の都市における生産・所得が一律に低いことを示すものではない。

都市部の比較をするために省都やそれに準じる主要都市の一人当たり総生産をみていくと、江蘇省や広東省で上海を超えている都市があるなどやはり沿海部の

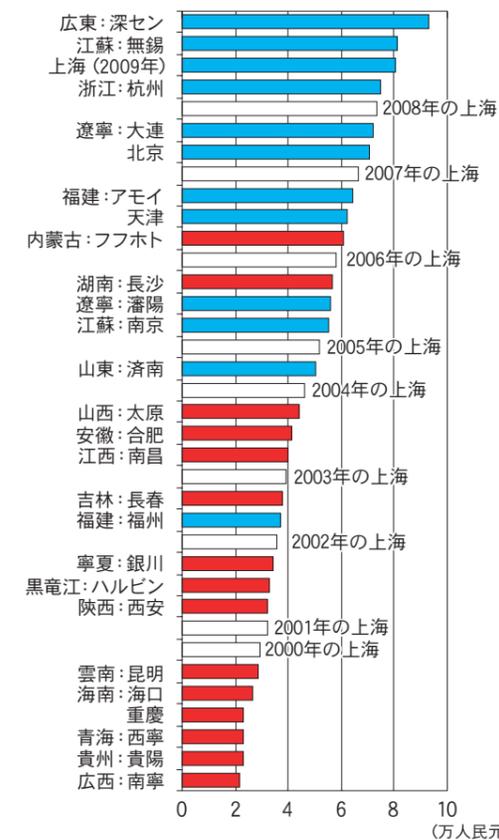
図表1 省別一人当たり総生産（2009年）



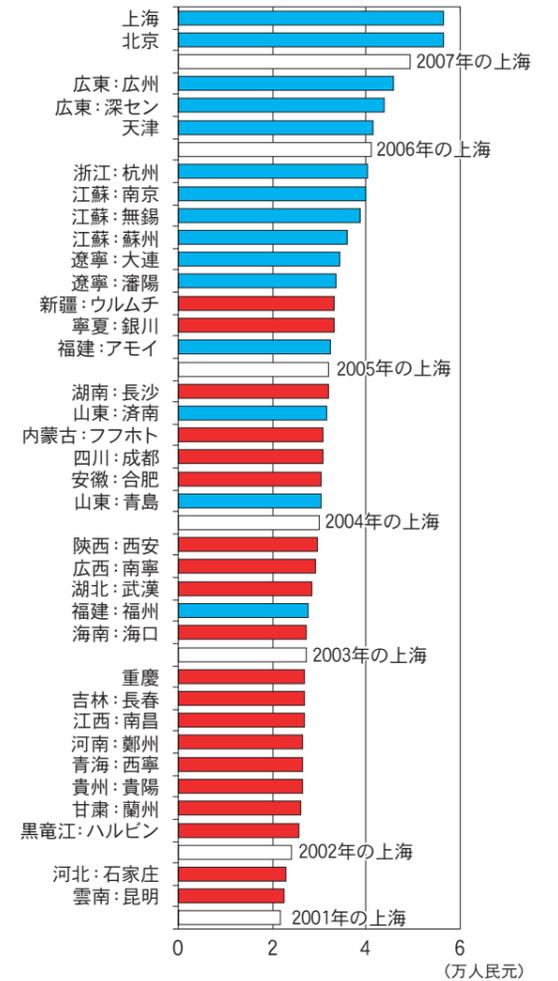
図表2 省別の都市人口比率と一人当たり総生産の関係



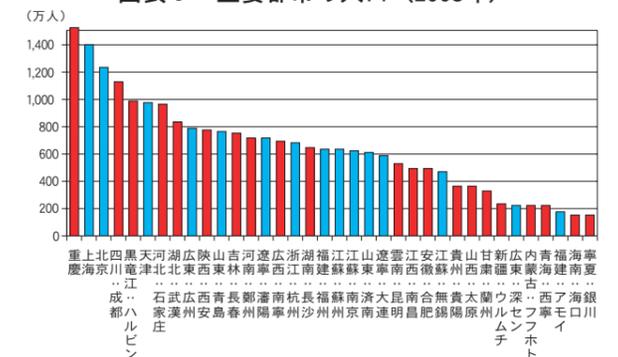
図表3 主要都市別一人当たり総生産（2009年）と過去の上海



図表4 主要都市別平均賃金（2008年）と過去の上海



図表5 主要都市の人口（2008年）



諸都市が上位にくる一方で、内陸部の都市でも上海に数年遅れの水準にある都市が多い（図表3）。平均賃金をみても、同様に内陸部の都市でも上海に数年遅れの水準にあり、購買力が数年前の上海の水準にあることを示唆している（図表4）。

また、こうした主要都市のほとんどの都市が数百万人から一千万人を超える人口を抱えており（図表5）、市場としての成長の余地はあるといえる。

2. 沿海部と内陸部の成長率の相違

前節では一人当たり総生産や賃金といった「水準」をみてきたが、ここでは経済成長「率」を省別にみていくこととする。

